

府立刀根山高等学校
校 長 野口 幸一

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標	「自ら未来を切り拓く 心豊かでたくましい人間を育てる」 ～希望進路の実現を支援する学校づくりをめざして～			
教育方針	1 希望進路の実現を図る	2 学力の向上を図る	3 学校行事・部活動の充実を図る	4 基本的な生活習慣の確立を図る

2 中期的目標

1 生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立

(1) キャリア教育を充実させ、生徒の勤労観・職業観を育成し、生きる意味、働く意味、学ぶ意味を考えさせ、できるだけ具体的な夢を描かせる。

ア 3年間を見通した進路指導計画を策定し、学力生活実態調査や適性検査を活用するとともに、生徒が主体的に進路を考えるための機会を設ける。

(2) 失敗を恐れずチャレンジする力を育成し、生徒全員が将来の夢への入り口となる志望大学等へ進学することをめざす。

ア 入学当初からの進路指導を重視し、「行ける大学」ではなく「行きたい大学」へ進学するため、生徒に正確な現状分析と課題認識をさせ、弛まぬ努力を継続できるよう支援する。

※生徒向け学校教育自己診断における「学校で将来の生き方について考える機会がある」の肯定的回答（平成 28 年度 82%）を毎年 2 %ずつ引き上げ、平成 31 年度には 88%をめざす。

※センター試験の出願率（平成 28 年度 52%）を毎年 10%ずつ引き上げ、平成 31 年度には 82%をめざす。

※国公立大学の受験者数（平成 28 年度 31 人）を毎年 20 人ずつ引き上げ、平成 31 年度には 100 人をめざす。

※国公立大学及び関西 5 私立大学（関学・関大・同志社・立命・近大）への現役進学者数（平成 28 年度 65 名）を平成 29 年度には 75 名に引き上げ、あと 2 年で 15%ずつ引き上げ、平成 31 年度には 100 名をめざす。

2 「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上

(1) 生徒に自己の進路実現と学力の関連性を意識させ、学習意欲を向上させる。

ア 1 年時から、志望する大学等へ進学するために必要な学力を意識させ、授業第一主義を確立するとともに、家庭や放課後での学習（自習力）を充実させる。

イ アカデミックな学力は当然のこと、自分の考えを持つ力、自分を表現する力を同時に育成する。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」と「興味・関心を高め生徒にとって分かる授業」の実現をめざした授業改善に取り組む。

ア 授業アンケートや学校教育自己診断の結果や分析内容を正確に認識するとともに、公開授業や研究授業を効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、ICT を活用した効果的・効率的な授業の推進を図る。

イ 他校での先進事例の視察や、教育センター並びに教育産業が主催する研修・講演会等への積極的な参加により、指導方法の改善に繋げる。

(3) 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。

ア 全ての教科で観点別評価による「指導と評価の年間計画（シラバス）」を作成する。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定的回答（平成 28 年度 52%）を毎年 5 %ずつ引き上げ、平成 31 年度には 67%をめざす。

※生徒向け授業アンケートにおける「授業に興味・関心を持つことができた」の肯定的回答（平成 28 年度 75%）を毎年 3 %ずつ引き上げ、平成 31 年度には 84%をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における「学校の授業はわかりやすい」の肯定的回答（平成 28 年度 64%）を毎年 5 %ずつ引き上げ、平成 31 年度には 79%をめざす。

3 豊かでたくましい人間性の育成

(1) あらゆる教育活動を通じて「多様性を尊重し人を大切にする」人権教育を計画的・総合的に推進する。

ア 正しい知識の獲得に加え、生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムを提供する。

(2) 情報リテラシー及び情報モラルを育成する。

ア SNS をはじめとしたインターネット上のいじめやトラブルで、生徒が加害者にも被害者にもならないよう、専門家による指導を含めた具体的な対策を講じる。

(3) 基本的な生活習慣の定着・改善を図るとともに、社会のルールやマナーを身につけさせ、規範意識を向上させる。

ア 全教職員で生徒の基本的な生活習慣（あいさつ、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動及び授業態度等）の改善・定着に取り組む。

イ 遅刻指導を強化し、年間遅刻数の前年度減をめざす。

ウ 教育相談体制及び生徒支援体制の充実を図る。

エ HR 担任及び教科担任による懇談のこまめな実施や積極的な情報の発信により、保護者との信頼関係を構築し、共通理解の形成を図る。

(4) 生徒の自主性や社会性を育成する。

ア 学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図る。

イ 海外研修を実施し、生徒に国際的な視野、文化や習慣の違いを尊重する精神、コミュニケーション能力等を育む。

※生徒向け学校教育自己診断における「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的回答（平成 28 年度 75%）を毎年 2 %ずつ引き上げ、平成 31 年度には 81%をめざす。

※年間遅刻回数（平成 28 年度 2,801 回）を前年度比減少させ、平成 31 年度には 2,000 回を下回るようにする。

※保護者向け学校教育自己診断の「学校は子どもの学校生活について保護者との意思疎通を図っている」の肯定的回答（平成 28 年度 80%）を毎年 2 %ずつ引き上げ、平成 31 年度には 86%めざし情報発信等を行う。

※部活動加入率（平成 28 年度 85%）の維持・向上と、活性化を図る。

※第 1 回海外研修を 7 ～ 8 月に実施するが、参加者を最低 20 名とし、平成 31 年度には 30 名にするとともに、交流を実施するように図る。

4	地域に開かれた学校づくり （１）刀根山高校の求める生徒像や魅力など、本校の教育活動の内容について、積極的に情報を発信する。 ア 学校ホームページ等の充実を図り、定期的に更新する。（毎週複数回の更新をめざす） イ 中学校や学習塾などへの訪問活動を充実させる。 ウ 授業公開・学校見学会・体験入学会の一層の充実を図る。 ※オープンスクール及び学校説明会へ参加した中学生数（平成 28 年度 生徒 972 名）を平成 31 年度に 1,200 名に引き上げる。 （２）地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。 ア 授業や部活動、生徒会活動などをとおして、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。 ※東日本大震災復興支援ボランティアを継続して実施する。特に、豊中市の主催するボランティアバスに引き続き参加する。 ※裏山の活用について関する生徒アンケートを実施し、「裏山を有効に活用できた」（平成 28 年度 64％）の回答を平成 31 年度に 80％とする。
5	校務の効率化と職場環境の改善 （１）校務処理システムを積極的に活用することにより、学習状況や健康管理に関する情報と課題を共有し、生徒と向かい合う時間を確保する。 （２）校務を効率化することにより、教職員の時間外勤務時間の縮減を図るとともに、労働安全衛生体制を充実させ職場環境を改善する。
6	学校経営推進費事業「刀根山・里山活用プロジェクト」の活用 （１）平成 29 年度の上記事業を活用して、以下の事項に取り組む。 ア 地域や大学と連携し、裏山を活用したキャリア教育を推進することにより、生徒の「志」を高め、勤労観・職業観を育成する。 イ 裏山に生息する動植物に直接触れ、大学教授等の専門家から指導を受けることにより、生徒の学習に対する興味・関心を高める。 ウ 裏山の資源を活用し、これまで進めてきた環境教育や防災教育をさらに推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 年 月実施分〕	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立	（１）キャリア教育の充実と勤労観・職業観の育成 ア 3年間を見通した進路指導計画の策定&生徒が主体的に進路を考えるための機会の設定 （２）チャレンジする力の育成と第一志望への進学 ア 入学時からの進路指導の強化&生徒が課題を認識し、最後まで努力するよう支援	（１） ア・学力生活実態調査や適性検査（職業・学問）の結果を個別面談で活用するとともに、学年全体・学校全体で長所や課題を共有し、今後の進路指導に生かす。 ・センター試験に代わる新テストへの対応も勘案したカリキュラムの見直しを進める。 ・進路指導部と学年の連携を強化し、効果的な進路指導を組織的に実行する。 ・生徒自らが進路に関する調査・研究をし、HRなどで発表する機会を作る。 ・裏山を活用したキャリア観の育成 （２） ア・入学当初に高校生活や学習法について丁寧に説明するとともに、3点（起床・自宅学習開始時刻・就寝）をチェックする。 ・1年時の夏に大学訪問し、大学のイメージを具体的にする。 ・成績及び進路に関して、教科担当者による面談を実施する。 ・センター試験の志願者数を増やし、最後まで頑張るよう指導する。 ・3年時の3学期の授業を午前中とし、午後は進学のための講習や自習支援を行う。	（１） ア・学習・進路指導の卒業前調査（3年生）「進路指導を通して自己変革があった」の肯定的回答 70%以上 (28年度：67%) ・生徒向け学校教育自己診断における「学校で将来の生き方について考える機会がある」の肯定的回答 84%以上 (28年度：82%) （２） ア・学習・進路指導の卒業前調査（3年生）の「進路実現のための自分の課題が見えた」の回答 50%以上（28年度：18%） ・進学希望者向け講習の実施状況（28年度：47%） ・センター試験の出願率 62%以上（28年度：52%） ・国公立大学の受験者数 50 人（28年度：31 人） ・国公立及び関西 5 大学への現役進学者 75 人（28年度：65 人）	

府立刀根山高等学校

2	「確かな学力」の育成と そのための教員の授業力の向上	（１）学習意欲の向上 ア 第一志望へ進学するために必要な学力の獲得&授業第一主義の確立&自学自習の充実 イ 自分の考えを持つ力と自分を表現する力の育成 （２）授業改善 ア 授業アンケートや学校教育自己診断の結果や分析の共有&公開授業や研究授業を効果的に活用した授業改善への組織的な取り組み&ICTを活用した効果的・効率的な授業の推進 イ 他校での先進事例の視察や、教育センター並びに教育産業が主催する研修・講演会等への参加	（１） ア・１年後期には模擬試験の結果を通して全国での自分の実力を認識させ、志望校とのギャップを埋めるための努力を支援する。 ・自習室を整備し、自学自習を支援する。 イ・１・２年生時にテキストを用いて論理的思考力・発信力・課題解決力を育成する。 ・授業の中で、ディベートやプレゼンテーションをはじめとした、いわゆるアクティブ・ラーニングの手法も用いて「考え、表現する力」を養成する。 ・大学等との連携により裏山を「学習フィールド」として活用する。 （２） ア・授業アンケートや学校教育自己診断の結果や分析内容を共有し、生徒のニーズを意識した授業改善に組織的に取り組む。 ・授業公開研修を中心に、全教員が年２回以上の授業参観を行い、授業改善に向けて議論する機会を設ける。 ・ICTを授業に活用するための実践に資する研修を行う。 イ・各教科から最低１名が教育センターや教育産業が主催する研修・講演会等へ参加し、得た情報を教科に持ち帰り共有する。 ・経験年数の少ない教員に対して、経験豊かな教員による個別研修及び他校教員との合同研修を実施する。	（１） ア・授業アンケート 「集中して授業を聞く」肯定的回答の向上（28年度：85％） ・生徒向け学校教育自己診断における「学校の授業は分かりやすい」の肯定的回答 69%以上（28年度：64％） イ・生徒向け学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定的回答 57%以上（28年度：52％） （２） ア・授業アンケート 「授業に興味・関心」肯定的回答 78%以上（28年度：75％） ・研修の実施及び充実（28年度：２回） ・全教員による年間２回以上の授業参観実施（28年度：１度も参観していない教員 14人） ・ICTを活用した授業の教員実施率 88%以上（28年度：83％） ・ICT研修の実施回数 2回 イ・外部研修への参加人数 5人以上（28年度：３人）	
3	豊かでたくましい人間性の育成	（１）人権教育の計画的・総合的な推進 ア 正しい知識の獲得&生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムの提供 （２）情報リテラシー及び情報モラルの育成 ア 生徒が加害者にも被害者にもならないための対策の実践 （３）基本的生活習慣の定着・改善と規範意識の向上 ア 基本的生活習慣改善と定着 イ 遅刻指導の強化 ウ 生徒支援及び教育相談体制の充実	（１） ア・人権教育推進委員会と学年・教科が連携し、正しい知識の獲得に加え、時宜に合わせて、生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムを提供する。 ・いじめの定義を再認識し、未然防止に努めるとともに、常にアンテナを張って早期発見に心がけ、事象が発生した際は迅速に対応する。 （２） ア・SNSをはじめとしたインターネット上のいじめやトラブルについて、教科「情報」の授業に加え、専門家を招聘して全生徒に講義や講演を行う。 （３） ア・学校全体で課題の共通認識を図り生徒指導に取り組む。 ・交通マナー（自転車・歩行者）の向上、「チャイム着席」などを継続して指導する。 ・地域の「とねやまあいさつ運動」と連動した取り組みを展開し、あいさつ向上をめざす。 イ・遅刻指導を継続して実施する。 ウ・学年及び委員会など校内の組織間及び外部機関や中学校との連携を強化して、生徒情報の共有に努め、生徒支援体制の充実を図る。 ・教育相談委員会を核とし、スクールカウンセラーの指導・協力のもと、ケース会議の開催などによりメンタル面で課題を抱える生徒を支援する。	（１） ア・生徒向け学校教育自己診断における「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的回答 77%以上（28年度：75％） （２） ア・専門家による講義や講演の回数 （３） ア・生徒向け学校教育自己診断における「集団生活のルールを守っている」の肯定的回答 86%以上（28年度：81％） イ・遅刻数の前年度比減少（28年度：2,801回） ウ・教員向け学校教育自己診断における「教育相談体制が整備され、生徒は学級担任以外の教員とも相談できる」の肯定的回答 80%以上（28年度：72％）	

府立刀根山高等学校

3 豊かでたくましい人間性の育成	(4) 自主性と社会性の育成 ア 学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加 イ 海外研修の実施	(4) ア・生徒会、PTA及び地域とも連携し、学校行事のさらなる充実に取り組む。 - 各部の活動状況・試合結果などをきめ細かくホームページに掲載するなど、活動状況の発信にも努め、加入率の向上を図る。 - 部活動においては、結果を求めるだけでなく、規律の遵守や挨拶の励行など、学校の模範となるよう指導する。 - 地域の団体や幼稚園、専門学校等と連携し、ボランティア活動やインターンシップ等への積極的な参加を促す。 イ・7～8月の10日間、オーストラリアにて語学研修も含めた国際交流を実施する。 - 国際交流委員会を中心に事前指導、事後指導を行い、全校生徒に対して展示や発表の形で報告を行わせる。	(4) ア・生徒向け学校教育自己診断における「文化祭や体育祭は、活発で楽しい」の肯定的回答 90%以上 (28年度：84%) - 保護者向け学校教育自己診断の「学校は子どもの学校生活について保護者との意思疎通を図っている」の肯定的回答 82%以上 (28年度：70%) - 部活動加入率の維持・向上と、活性化を図る。(28年度：85%) イ・第1回海外研修の目標参加者数 20名以上	
4 地域に開かれた学校づくり	(1) 本校の教育活動の積極的な情報発信 ア ホームページ等の充実 イ 中学校や塾などへの訪問の充実 ウ 授業公開・学校見学会・体験入学会の一層の充実 (2) 地域との交流・連携の推進 ア 地域の学校や保育園などとの交流・連携の推進	(1) ア・ホームページのコンテンツ等を充実させるとともに、保護者向けメールマガジンの活用により、学校情報をさらに積極的に発信する。 イ・中学校や学習塾への訪問を強化し、本校の求める生徒像や魅力を発信する。 - 学校説明会や体験入学の内容を充実させる。 (2) ア・裏山等の刀根山の特徴を活かし地域連携を推進する。 - 小学生や中学生に出前授業等を実施する。 - 地域の学校や福祉施設等との連携事業及び自治会等と連携したあいさつ運動や清掃活動、防災行事などに取り組む。 - 生徒のボランティア活動をサポートする。	(1) ア・ホームページの更新回数・閲覧者数、メールマガジンの発信回数増 (28年度：HP更新 72回、閲覧者 36,133人、メルマガ発信 51回) イ・中学校への訪問回数、及び学校説明会への参加人数の増 (28年度：中学校訪問 83校、参加人数 972人) (2) ア・裏山の活用状況 - 出前授業などの実施状況 - 地域行事等への参加状況	
5 校務の効率化と職場環境の改善	(1) 校務処理システムの積極的な活用 (2) 時間外勤務時間の縮減と職場環境の改善	(1) ア・生徒の出席状況を日々入力し、学習状況、健康管理に関する情報を教員間で共有する。 - 業務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。 (2) イ・安全衛生委員会を定期開催し、職場環境の改善に向けた検討を行う。 - 空調環境、視環境、音環境などを改善するとともに、衛生的なトイレ、更衣室、休憩場所など福利厚生施設の充実を図る。	(1) ア・教員のICT活用状況 - 時間外勤務時間の縮減 (月80時間以上の職員の延べ数を半減させる) (28年度：23名) (2) イ・安全衛生委員会の毎月開催 - ストレスチェックの「作業環境が(やや)悪い」の回答率を50%未満にする。(28年度：55.3%)	
6 学校経営推進費事業「刀根山・里山活用プロジェクト」の活用	(1) 平成29年度の当該事業を活用した取り組み。 ア 裏山を活用したキャリア教育の推進&勤労観・職業観の育成 イ 裏山に生息する動植物との直接的な触れ合い&大学教授等の専門家からの指導 ウ 裏山の資源を活用した環境教育や防災教育のさらなる推進	(1) ア・地域や大学と連携し、裏山を活用したキャリア教育を推進することにより、生徒の「志」を高め、勤労観・職業観を育成する。 イ・裏山に生息する動植物に直接触れ、大学教授等の専門家から指導を受けることにより、生徒の学習に対する興味・関心を高める。 ウ・裏山の資源を活用し、これまで進めてきた環境教育や防災教育を、地域や大学と連携し、さらに推進する。	(1) ア・学習・進路指導の卒業前調査(3年生)の「進路実現のための自分の課題が見えた」の回答 50%以上 (28年度：18%) 学校教育自己診断「学校で将来の進路や生き方について考える機会がある」の向上 (27年度：82%) イ・授業アンケート 「授業に興味・関心」肯定的回答 78%以上 (28年度：75%) ウ・生徒アンケート「裏山を有効に活用できた」の回答 60%以上	